

社会福祉法人

令和3年4月号

葦の家福祉会だより



12月18・19日に、これまでに授産品のデザインに選ばれた作品の原画展を地域の商店跡地をお借りして行いました。当日は地域の方にも多数ご来場いただき、素敵な展示会になりました。

会場では、アート活動を始めた頃の懐かしい作品にも出会うことができ、葦の家・えーる油山のアート活動の歴史を振り返ることができました。

「お絵かき」や「遊び」から始まった創作活動は、仲間たちの描き出す作品の面白さ、素晴らしさをより多くの人に知ってもらいたいという思いから、ポストカードに始まり、Tシャツ、トートバックなど、さまざまな授産製品作りへと繋がっていきました。自分たちの描いた絵が製品となり、多くの方々に買っていただけたことは、仲間たちの喜びとなり、自信に繋がっていきました。そのあとも、さまざまなコンクールで表彰を受けたり、展示会を開いたり、マスコミ取材を受けたりと社会的な評価を実感できるようになりました。これからも仲間たちのユニークでほっこりする作品の数々を商品化して、皆さまのもとにお届けしたいと思います。応援、よろしくお願いします！



イスキアの森

野山に草花が芽吹き、人々が一斉に明るい日差しに向かって動き始めました。皆さまにおかれましては如何お過ごしでしょうか。

さて、博多区から飯塚方面へ車で30分位走ったところに篠栗町があります。篠栗町を含む若杉山一帯は、日本全国に55箇所ある「森林セラピー基地」の一つで、町は深い森に囲まれています。

今回は、森にちなんだ話をしたいと思います。話は10年以上前に遡ります。私は地球交響曲という映画を観ました。この映画のメインキャストの一人が佐藤初女さんでした。

初女さん（故人）は、弘前市郊外岩木山麓の「森のイスキア」という教会風の建物に住み、人々に食事（おにぎり）を提供し、病気や痛みなど様々な悩み事を抱える人々の声に耳を傾けました。人々はいつしか初女さんのことを「日本のマザー・テレサ」と呼ぶようになりました。

森林の中にいると、私たちは清々しいと感じます。ある種の植物由来物質が、人間に生理的リラックス状態をもたらし、それが免疫機能を向上させます。森林には、大気の浄化作用があり、この浄化作用をもたらす物質がフィトンチッドと呼ばれます。

コロナ禍でずっと家の中に閉じこもりがちだった私たち。本来なら、家族そろってハイキングに出かけられる絶好の季節なのですが、まだまだコロナは続きそうです。森林セラピーの力を信じて、お近くの森へ出掛けてみては如何でしょうか。若杉山一帯はお遍路さんもあってオススメです。

社会福祉法人葦の家福祉会
理事長 福山 良弘

令和3年度の事業方針とこれからの防災対策

令和3年度の法人の事業方針を策定しました。新型コロナウイルスの終息がまだまだ見えない中、葦の家らしい支援や地域交流、行事の再開をめざしながら、中期事業計画のメニューを反映させる内容です。運営面では、組織や給与制度の見直し、事業面では、グループホームの安定化、通所施設の修繕、環境整備などを柱にしています。特に、利用者の高齢化に伴い、高まる医療ニーズへの対応が課題となってきています。

防災対策の強化、災害時の地域との連携体制作りもテーマにしています。東日本大震災から10年が経ちました。法人から7名の職員を福島県南相馬市に派遣し、地震、津波、放射能汚染による被害、特に障がい者をはじめとする災害弱者と呼ばれる人たちが、災害時に取り残される実態を目のあたりにしました。福岡市でも、避難行動要支援者名簿の条例が議会で審議されようとしています。集中豪雨など、毎年のように相次ぐ自然災害に対し、法人としても地域と連携した備えをしていきたいと思ひます。

（法人本部長：友廣）



7名の仲間が成人を迎えました！



積雪により延期にはなりましたが、1月16日に葦の家・えーる油山合同で「成人を祝う会」を無事開催することができました。密を避けるため、少人数での開催でしたが、心のこもった温かい式になりました。各仲間のこれまでの写真をスライドで振り返ったり、寄せ書きや花束を渡したりと、たくさんの笑顔があふれていました。スーツや晴れ着に身を包んだ新成人の面々はとても大人びていて、立派でした。これからはそれぞれ一人の大人として、自分らしく輝ける存在になっていって欲しいと思います。今後の活躍に期待しています！



コロナ禍でもがんばって活動しています！

昨年3月に福岡県で初めて新型コロナウイルス感染者が発生して1年が経ちました。このたよりやフェイスブックなどでもお伝えしている通り、支援員も日々の作業・活動の在り方を工夫しながら仲間たちの支援を続けています。仲間たちは様々な制約を受けながらも、できるところをがんばっています。前回のたより（12/1号）以降、クリスマス会、成人を祝う会、節分、バレンタインなど、規模を縮小したり、密を避けたりしながらではありましたが、さまざまなイベントが行われました。仲間たちはコロナ禍でもがんばって活動しています！



葦の家とすまいるホームでのクリスマス会



葦の家に現れた鬼(左)とえーる油山に現れた鬼(右)



うれしはずかしバレンタイン♡



もちろん作業もがんばっています！

令和4年度採用活動を始めています！

～ 昨年度の職員採用活動を振り返って ～

法人にとって採用活動は、仲間たちの生活を守っていくためにも、支援の幅を広げ、生活を豊かにしていくためにも不可欠な活動です。昨年度の採用活動を通して入職を決めた支援員さんたちも、この4月から仲間のために活躍してくれることでしょう。

これまでの採用活動では事前の見学説明会の際に、スライド等による単なる説明だけでなく、仲間と小一時間ほど一緒に活動する場面を設けたり、法人の全体像を知ってもらうために複数事業所の見学を行ったりしていました。その中で、「地域の中でふつうの生活を」という法人の理念を伝え、頑張っている仲間たちの姿を見てもらいながら、自分の将来の仕事のイメージを持ってもらえるよう取り組んできました。



昨年発生した新型コロナウイルスは、この状況を一変させました。見学説明会参加のきっかけとなる合同説明会は軒並み中止となり、一時期はオンライン説明会しか行えない状況でした。見学説明会が行えるようになって、参加人数を限定したり、支援現場の見学も一部に限定して遠巻きに行ったりするなど、感染症対策を行った上での開催となりました。そのような状況でもなんとか法人のこと、仲間たちのことを知ってもらい、「ここで働きたい」と思ってもらえるよう、ビデオによる支援現場紹介を取り入れるなどの工夫を行ってきました。

今年も3月から令和4年度に向けた採用活動を開始していますが、学生さんはオンライン授業などへの慣れからか、初めからオンライン説明会を希望する方が多く、どうやったらオンラインでも支援業務の楽しさや面白さ、やりがいや伝わるのか、試行錯誤しながら採用活動を進めています。

福祉職は「人」で決まります。仲間たちに寄りそいながら一緒に前に進んでいける、そんな



支援員さんに来てもらうことが仲間たちの幸せ、家族の安心に繋がっていきます。そのために事務局も頑張っていきたいと思っています。

(法人本部事務局長：末次)

～ 主要人事のお知らせ ～

【 福岡市立特別支援学校（屋形原・若久）放課後等支援事業 】

管理者：友廣 道雄（令和3年4月1日付）



葦の家（生活介護）

見つける楽しみ！

毎年2～3月頃、仲間たちは葦の家後援会主催の「ふれあいバザー」での出店や1年の慰労を兼ねた班外出を楽しみにしていましたが、今年度はコロナ禍で中止となりました。しかし、その中でどんな楽しみを提供できるのかが支援員の腕の見せ所です。

ふれあいバザーでコーヒー販売をしていた班では、事務室で週1回行っていたコーヒー販売を週2回にして、仲間たちの販売（接客）機会を確保しました。終日動物園に行く予定だった班は、短時間ですが他班と合同で公園での茶話会を企画しました。また少し足を延ばして白水公園に行き、屋外散策を楽しんだ班もありました。

作業面では、地域の方にお声掛けいただいたマルシェでの販売に向けて、フェルトボール作りやアロマストーン作りを頑張っています。

コロナ禍だからこそ活動内容を工夫したり、仲間同士で協力したりと、悪いことばかりではありません。新年度も前向きな気持ちで出発します！

（サービス管理責任者：岡村）



えーる油山（多機能型：就労継続B型+生活介護）

仲間も取り組むコロナ対策

新型コロナウイルス発生から1年、世の中全体がコロナ禍の生活を強いられる中、仲間の健康管理で課題なのが、「①自らの体調を相手に伝えることが難しい」「②目的が理解できず、痛みや恐怖を感じる検査や治療を受けることが困難である」ことです。しかしその目的をわかりやすく置き換えることや、集団の中で「みんながやってる、いつもやっていること」として繰り返すことでできるようになることがあります。例えば脇で熱を測ることが難しくても、顔をかざして検温するものでは写真感覚で測ることができます。嫌なことでも周りがほめてくれるならがんば

れるということもあります。この一年で手洗いや手指消毒、マスクを嫌がっていた仲間が少しずつ出来るようになってきた様子も見られます。

コロナウイルスの対策では今までやってきたことを「こうすればできる」ように置き換えることが必要なのではないかと思えます。

（サービス管理責任者：中司）



特別支援学校放課後等支援事業（屋形原・若久）

福岡市防災センターオンライン来館♪

ルームでは毎年、防災学習をかねたレクリエーションで福岡市防災センターに行くのですが、今年は我慢！…代わりにルームでインターネットのオンライン来館を利用しました。

動画を観ながら「地震が起きたらどうする？」、「逃げる時に何を持っていく？」など、こどもたちと一緒に考えました。動画視聴の後は、「防災リュックの中身を見てみよう！」ということで、何が入っているか確認し、実際に手回し充電ラジオを使ってラジオ放送を聞いたり、防災頭巾をかぶったり、遊びながらの楽しい学びのひとつでした。



卒業生のお祝い会をしました♪



屋形原どんぐりルームの卒業生（高等部 3 年生）をお祝いしました。ビンゴ大会や思い出スライドショー、最後は卒業生からの一言、スタッフやこどもたちからお祝いの言葉を贈り、とてもあたたかい会となりました。

4 月は新しい出逢いの季節です。どんぐりルームにも新一年生がやってきます。これからも笑顔のあふれるルームを作っていきたいと思います！

（責任者：是永）

ヘルパーステーションほっとほっと・ショートステイ

ほっとほっとの新たな取り組み

ヘルパーの仕事はご利用者と 1 対 1 の支援です。支援中の判断はひとりで行うため、その場の対応は間違っていたか悩むことがあります。他の支援者と意見交換をすることで不安を減らし、次の支援に安心して入ることができていますが、安心と共に支援者の質の向上を図るため、新たに支援スーパーバイザー（以下支援 SV）の取り組みを始めました（※支援 SV とは支援者を指導・教育・評価する役割を担う人の事）。支援 SV と支援者の 2 名対応で強度行動障がい対象者の K 様を年間通して支援し、振り返りのサイクルを指導・評価していくことで支援の質の向上が見られ、ご利用者の笑顔や安心に繋がりました。

詳細の取り組み内容は令和 2 年度の法人実践発表誌にて報告しています。興味のある方はご覧ください。

ほっとほっとの理念【障がいのある方々が、家庭や地域の中で、安心して生活し、のびのびと活動できるように支援にあたります】を大切にしながら取り組みを続けて、サービスの質の向上に努めていきたいと思えます。

（サービス提供責任者：串間）



相談支援（基幹相談支援センター・相談支援センターあしっぷ）

コロナ禍における相談支援とこれからの相談支援

本当に困っている人ほど、外に SOS を発信することが難しく適切な支援につながりにくいものです。そのため、いかに困り感をキャッチし、職員自ら外に向けて動いていけるかが相談支援のポイントとなります。相談支援センターにおける個別支援では、上記のように訪問や同行など対面における支援が必要なことが多く、コロナ禍においては感染拡大の状況を見ながら職員間で対応を検討、模索した 1 年となりました。

一方、職員の工夫により新しい試みも行うことができました。在宅ワークでの自己研鑽や所内研修による学びや意識の共有、その他、地域関係者のネットワークづくりにおいてリモート研修企画の試みなど、新たな発想や取り組みは今後につながるものとなりました。今年度は、事業開始から 4 年目に入る相談支援センターあしっぷの体制を見直す予定です。制度や報酬上の課題から、地域においてはなかなか相談支援事業所が増えない現状があります。



あしっぷにおいても運営上の課題は同様であり、実質 1 名の相談支援専門員が多くのケースに対応せざるを得ない状況が続いています。事業単体では赤字ですが、法人の中でも大切な事業として応援をもらいながら運営しています。

今年度は事務的な仕事を整理したり、自分たちが対応可能な支援を再検討したりしながら、一つひとつのケースに丁寧に関わることができる相談支援センターを目指していきます。また、解決が困難な事例については、市内に 14 か所ある各区障がい者基幹相談支援センターと積極的に連携し、検討していきたいと考えます。この相談支援事業を粘り強く継続しながら、地域に他の相談事業所や新しい資源を増やすことができるように開拓、運動を続けていきたいと思えます。

（管理者：西郷）

グループホーム（すてっぷ・すまいるホーム）

服薬支援の大切さ

すまいるホームが完成してから、早いもので 5 年目を迎えます。ホームで暮らす 10 人の仲間たちも、40 代から 70 代と、高齢になってきました。

そのような仲間の生活を守るために必要不可欠なのが服薬介助です。高齢化に伴い、もともと服薬がなかった仲間にも薬が処方されたり、臨時薬が多くなったりしています。仲間が暮らしているすまいるホームには、服薬の介助だけでなく、10 人分の処方薬を全て把握して、誤薬が起こらないように提供できる仕組みが求められています。しかし、薬の専門家ではない上、シフト制により毎日勤務者が入れ替わる生活支援員が服薬支援を行うことは難しく、常にホームでの課題となっていました。



そこで現在、すまいるホームでは服薬支援担当者を男女1名ずつ置き、その2名で薬の把握や周知の実施、1週間分の薬を飲むタイミングによって分けて入れることのできるボックスへのセットとダブルチェックを実施しています。そして、その日勤務している職員が毎日決められた時間にボックスから、朝食後・夕食後等それぞれのタイミングごとに用意している服薬ケースに移動させていきます。そして実際に服薬介助を行う前は、その場の職員2名で服薬する仲間や



タイミングを確認し、仲間に服薬していただいています。

この方法に変更してから、すまいるホームでの服薬支援の質が上がり、仲間により安心して服薬していただけるような仕組みになってきているのではと考えています。これからも、服薬支援を含めてより良い支援を提供し、仲間に地域の中で充実した生活を送っていただけるようにしていきます。

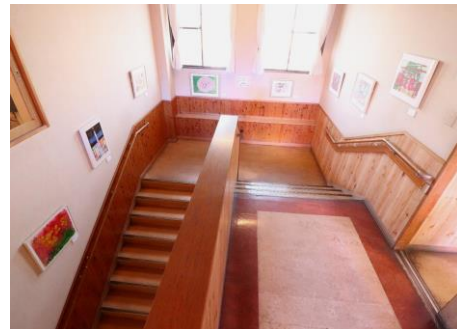
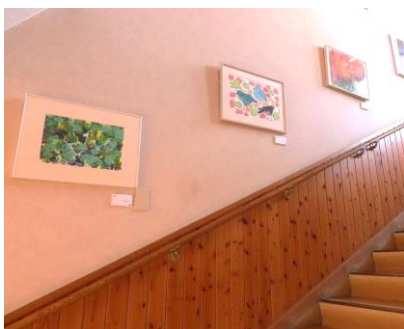
(生活支援員：緒方)

壁面ギャラリーをリニューアル！

葦の家では2階へと続く階段の壁に仲間たちの絵を飾っています。今回、表紙でも扱った「授産品原画展」でも好評だった作品や、毎年応募している「きょうされんグッズデザインコンクール」で入賞した作品を展示しています。

仲間たちも自分の絵が飾られていると嬉しいようです。次の作品制作への励みになればと思います。

ご来所の機会があれば、ぜひご鑑賞ください。



社会福祉法人 葦の家福祉会だより 令和3年4月号

発行日 令和3年4月1日

編集・発行 社会福祉法人 葦の家福祉会

〒814-0153 福岡市城南区樋井川4丁目1-17

〈代表〉Tel 092-873-7481 Fax 092-834-3362

E-mail asinoie@blue.ocn.ne.jp

URL <http://www.ashi.sakura.ne.jp>